

## 元旦メッセージ

2009.1.1

ベック兄メッセージ(メモ)

於西軽井沢国際福音センター

ただ今S兄弟が言われましたように、この目に見える世界は確かにもうめちゃくちゃな世界になりました。けれども目に見えないイエス様は生きておられます。ですから最初に歌われた歌は本当に素晴らしいのではないのでしょうか。「今も生きておられる主イエス」と。確かに今年はまだ大変な年になると思います。良くなる可能性はありません。

ルカ伝 21章 28節に、次のように書かれています。

ルカの福音書 21章 28節

**「これらのことが起こり始めたら、からだをまっすぐにし、頭を上を上げなさい。贖いが近づいたのです。」**

「これらのことが起こり始めたら」がっかりしなさい、ではなく、「からだをまっすぐにし、頭を…」です。もうちょっと…。イエス様を知るようになった人々は輝く素晴らしい将来を持つ者です。イエス様は、彼らにとって道であり、真理であり、いのちそのものであるからです。イエス様なしの将来は、確かに真っ暗闇です。イエス様を知るようになった者は、本当に心から喜ぶことができます。なぜなら、確信できるからです。もうちょっとで、イエス様はお出でになります。しかし今日かもしれない...と考えると、嬉しくなります。

どのような状況におかれていても、どのような問題があっても、私たちは希望を持って将来に向かうことが出来るのです。

ヘブル人への手紙 10章 37節

**「もうしばらくすれば、来るべき方が来られる。おそくなることはない。」**

2、3日前に、いくつかのクリスマスカードと手紙をもらいました。

ある夫婦は次のように書いたのです。

「イエスのご再臨がもうすぐだと思うと、とても嬉しいです。私たちの家族に次々と起こる問題も背後にイエス様の御計画があると知り、悲しみながら喜んでいきます。愛する集会の兄弟姉妹とともに祈り、イエス様だけを見上げて将来も闘いたいのです。」

このような心構えを持つことは、主の恵みの結果なのではないでしょうか。

別の人は、

「2008年はいろいろなことが与えられ、問題は増える一方でしたが、主のみことばをいただいて祈りながら歩ませていただいています。毎日『主よ。早くお出でください！お待ちしております』とお祈りしています。」

このような心構えを持つことこそ、大切なのではないのでしょうか。何があっても、あきらめる必要はありません。イエス様は生きておられ、また来てくださるのです。

ヘブル人への手紙 9章28節

**キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。**

とあります。聖書を読むと救い主の出現についていろいろ書かれています。最初にイエス様は皆さんご存じのように、全人類を救うためにみどりごととして来られました。どうして来られたかといいますと、「死ぬため」です。身代わりとなり罪とされるために、罪の問題を解決するために、イエス様はお出でになりました。しかし今度は、イエス様は主の恵みによって救われた人々を御自分にお迎えになるために、みどりごととしてではなく「花婿」として、み姿をお現わしになります。

イエス様が迎えに来てくださると考えると...、ちょっと考えられません。私たちはそのような価値ある者ではないからです。けれどもイエス様が二度目に来られるときには罪人を裁くためではなく、御自分の花嫁であるからだなる教会を、御自分のために迎えるために来られます。

マタイの福音書 24章40、41節

**「そのとき、畑にふたりいると、ひとりを取られ、ひとりが残されます。ふたりの女が臼をひいていると、ひとりを取られ、ひとりが残されます。」**

とあります。これは分けられる二つのグループのことを言っていることばです。集会の中においても、どの人がどちらのグループに属しているのか、ということはだれの目にも明らかではないでしょう。ある人は確かに生まれ変わりを体験しているように見えるかもしれませんが、実際にはどうであるか分かりません。逆に信じているかどうかははっきりしていない人たちがいるかもしれませんが、このような人たちの中にも主が受け入れられた人たちがもちろん必ずいるに違いありません。イエス様が二度目に来られるときには、全て、これらのことがはっきりされるのです。すなわちイエス様が二度目に来られるとき、主に属している全ての人々、すなわちその人の死んだ霊が主の霊によって生き返らせられた人々はみな、その姿を急に消すのです。姿が見えなくなります。よく読む箇所をもう一度紹介致します。

テサロニケ人への手紙・第一 4章16、17節

**主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から**

下ってこられます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

イエス様が最初にみ姿を現わされる前に、「見よ」という注意を促すことばがありました。二度目に主がみ姿をお現わしになるときも、「見よ」あるいは「聞け」という注意を促すことばが書かれています。

コリント人への手紙・第一 15章51、52節

**聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみなが眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちです。ラッパが鳴ると死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。**

どうして、ここに「聞きなさい」ということばが使われているのでしょうか。

それは、

第一番目。今まで以上に待ち望みの生活をしなさい、という意味です。

今、イエス様を待ち望んでいない人は不従順な人です。そして不従順は罪です。

第二番目。今まで以上に主に喜ばれる生活をしなさい、という意味です。

それは、自分自身の気に入るようなことだけをするのではなく、また人間に気に入られるようなことだけをするというのではなく、ただ主のみこころに叶うことだけをしなさい、という意味です。

パウロは一つの模範ではないでしょうか。ガラテヤ書1章10節を見ると、次のように告白しました。

ガラテヤ人への手紙 1章10節

**いま私は人に取り入ろうとしているのでしょうか。いや。神に、でしよう。あるいはまた、人の歓心を買おうと努めているのでしょうか。もし私がいまなお人の歓心を買おうとするようなら、私はキリストのしもべとは言えません。**

第三番目。今まで以上にまだ救われていない家族のために祈り、かつ闘いなさい、という意味です。

イエス様は、私たちの祈りに応えようとなさっておいでになります。イエス様への「待ち望み」が、私たちの毎日の生活を決定するものでなければなりません。

私たちが救われたことの一つの理由の一つは、イエス様を待ち望むことです。テサロニケで主に出会った人々は非常に強い影響を及ぼした人々でした。パウロは彼らに書くことが出来たのです。

テサロニケ人への手紙・第一 1章9、10節

**私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。**

彼らは、ただイエス様を信じた、救われただけではなく、彼らは主にだけ仕えるようになり、そして再臨なさる主イエス様を待ち望むようになった人々でした。イエス様が二度目に来られるときには、多くの人々があとに残され、歯噛みをするようになります。

このような、引き上げられるという体験をした人はエノクという人です。ヘブル書の中にエノクについて書き記されています。

ヘブル人への手紙 11章5節

**信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされました。**

「死を見ることがないように移されました」とは、天に移されたということです。人々はエノクを必死になって探しましたが、見つけ出せなかったのです。

もう一人、死を見ないでそのまま天に引き上げられた男は、エリヤという預言者でした。

列王記・第二 2章15節から17節

エリコの預言者のともがらは、遠くから彼を見て、「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている。」と言い、彼を迎えに行き、地に伏して彼に礼をした。彼らはエリシャに言った。「しもべたちのところに五十人の力ある者がいます。どうか彼らをあなたのご主人を捜しに行かせてください。主の霊が彼を運んで、どこかの山か谷に彼を投げられたのかもしれませんが。」するとエリシャは、「人をやってはいけません。」と言った。しかし、彼らがしつこく彼に願ったので、ついにエリシャは、「やりなさい。」と言った。それで、彼らは五十人を遣わした。彼らは、三日間、捜したが、彼を見つけることはできなかった。

エリヤのことも、人々は探しましたが見つけることが出来なかったのです。主がエリヤを取り去られたからです。これと全く同じように、全ての主イエス様の恵みによって救われた人々が一瞬のうちに取り去られるときに、あとに残された人々はこれらの人たちを捜し求めることになるでしょう。しかし、見つけることは出来ないのです。そのとき多くの人々は自分たちの人生について、また取り去られた自分の妻や両親、あるいは子どもたちのことについて真剣に考えるようになるのではないのでしょうか。

聖書の喜びのおとずれとは、「今は救いの日です。( コリント 6 : 2 )」。あなたがもしイエス様を自分の救い主として受け入れるなら、今日これからでも新しい人生と、そして永遠のいのちを得ることが出来るのです。イエス様は次のように約束してくださいました。

ヨハネの福音書 14章2、3節

**「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」**

そして、ヨハネ伝 17章の中でイエス様は祈られました。

ヨハネの福音書 17章24節前半

**「父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしと  
いっしょにおらせてください。」**

このイエス様の祈りは、必ず聞き届けられるようになります。

「からだをまっすぐにし、頭を上を上げなさい。贖いが近づいたのです。」「もうしばらくすれば来るべき方が来られる。おそくなることはない」と考えると本当に嬉しくなります。安心して全てを主に任せることが出来るのではないのでしょうか。

了